

# めぶきニューヨークレポート

## MEBUKI NEW YORK REPORT

2019年5月号

- ◇ 【調査レポート】上昇を続ける米国の医療保険料・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1
- ◇ 【視察レポート】NYIASと自動車メーカーを取り巻く環境・・・・・・・・P. 3
- ◇ 【NYライフ】イースターパレード&ボンネットフェスティバル・・・・・・・・P. 6
- ◇ 【米国マーケットレポート(4月)】・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・P. 8

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所  
712 Fifth Avenue 8<sup>th</sup> FL  
TEL : +1-347-686-8420  
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



## －上昇を続ける米国の医療保険料－

米国における医療保険料は、2002年から2015年までの平均上昇率で年8.2%上昇しています（全保険会社の平均）。これは、同期間で賃金が年3.5%、インフレ率が年2.8%それぞれ上昇していることに比較すると突出したものとなっています。

では、なぜ医療保険料だけがここまで上昇しているのでしょうか。今回はその理由を中心にレポートします。

### 1. 医療保険料算出の仕組み

医療保険料は医療費を原価として算出されています。つまり医療費が高くなればなるほど、医療保険料も高くなります。原則として、米国では医療費は医療機関の自由裁量（自由価格）であり、各医療機関が運営コストを医療費に反映させることが可能な仕組みとなっています。そのため、同じ治療を受けた場合であっても、医療機関の場所や医療機器に代表される設備の状況に応じて、医療機関ごとで医療費に違いが生じます。また、前年の保険利用の実績も次年度の保険料上昇に影響を及ぼします。ただ、相互扶助の観点から、100名未満の企業については州ごとに1つのプールとして保険料を計算するため、小規模な企業にとって急激な保険料の上昇を回避するシステムとなっています。

先進各国で総医療費の対GDP比を比較すると、2017年のデータで米国は17.2%と、スイスの12.3%、フランス、ドイツ、スウェーデン、日本の11%前後と比較すると世界でも突出しています。しかも、米国における一人当たりの年間医療費は年々右肩上がりです。上昇を続けており、2018年では年間12,470ドル程度と見込まれています。

### 2. 医療費高騰の背景

医療費が高騰している背景として、以下の事項が挙げられます。

#### (1) 新薬の承認が困難となっている一方で、研究開発費は増加していること

新薬の候補物質が見つかりにくくなったことに加え、アメリカ食品医薬品局（FDA）に対する安全性への要請が高まっています。また、近年では「Special Drug」という特別な保存・取扱い・投与方法を必要とする高額処方箋薬が医療費の上昇に大きく影響しています。なお、世界の新薬の半分は米国で消費されていると言われています。

#### (2) 過剰な医療行為が蔓延していること

医師による医療過誤訴訟に備えた過剰な医療行為が蔓延しています。百万人当たりのMRIやCTスキャンの設置台数、千人当たりの年間利用回数とも、米国は他の先進国より多くなっています。

#### (3) 米国が訴訟大国であること

訴訟予防策として、医師は医療過誤訴訟保険に加入しています。産婦人科医や麻酔科医といった訴訟リスクの高い医師は、保険料が高くなっています。この保険料と関連する過剰な医療行為は、総医療費の約1割を占めると言われており、しかも、医療過誤訴訟保険

料は近年高止まっている状態にあります。

(4) 無保険者の未払治療費が転嫁されていること

無保険者の治療費未払分については、政府等により補填されるか、あるいは医療機関により吸収されますが、これらは最終的には医療費に転嫁されることとなり、これが医療費高騰に繋がっているという状況となっています。医療保険料の7.7%が無保険者の未払い治療費に起因したものとなっています。

(5) シングルペイヤー・システムがないこと

シングルペイヤー・システムとは、日本の健康保険のような、国民の医療費は政府基金によって支払う制度のことを言います。日本とは違い、米国では各民間保険会社が医療機関と医療費の交渉を行うため、交渉力が分散してしまいます。また、多様化する保険プランに合わせて医療保険事務が複雑化し、管理コストが肥大化しています。米国における医療費に占める医療保険事務費用の割合は7.0%であり、これはドイツの5.4%、スイスの4.9%と比較し高い割合となっています。

(6) 医療システム・医療事務が複雑であること

保険加入者（患者）ごとに異なる保険会社ネットワーク・保険プラン、保険会社ごとに異なるネットワークを通じた医療サービスごとのディスカウント請求額、医師・医療機関ごとに異なるネットワーク加入状況等により、医療保険事務の運営に多くの人材配置・多額のシステム投資が必要となっています。

(7) 過度な肥満、生活習慣病が増加していること

米国民の3分の1は肥満（BMI指数30以上）と言われています。地域では中西部と南部で肥満人口率が高くなっています。主な原因は「健康管理への意識の低さ」と「雇用主不介入」です。また、子供（2～19歳）の約17%が肥満とされ、将来の成人肥満の予備軍となっています。

### 3. まとめ

高騰する医療費に対応すべく、2010年に「オバマケア」が導入され、これにより一般の米国民に対して民間の医療保険への加入が義務付けられました。保険に加入しない場合には罰金を課すことにより、無保険者数および無保険者割合自体は減少、低下しました。しかし一方で、加入を義務化することにより、保険会社は加入者全体の中で既往症を抱える人や高齢者といった、いわゆる「保険金を支払うリスクの高い人」の割合を増加させることとなり、これが医療保険料の上昇に繋がりました。

日本における医療費の決定方法は、厚生労働省が個々の技術・サービスを点数化（診療報酬制度）していることから、同じ治療を受けた場合の医療費は同一です。米国における医療費高騰の背景は上記の通りですが、今後、高騰する医療費を食い止めるためには、政府自体が医療費の基準決定等について積極的に関与し、医療機関に医療費の値下げを促す等の対応が必要となるかもしれません。

以上

【ニューヨーク駐在員事務所 首席駐在員 飯塚 藤郎】

## 視察レポート

### —NYIAS と自動車メーカーを取り巻く環境—

4月19日～4月28日に毎年恒例のニューヨーク国際オートショー（以下 NYIAS）がマンハッタンで開催されました。今回一般公開前のプレス向けの展示会に参加しましたので、自動車を取り巻く環境と合わせてレポート致します。

#### 1. NYIAS について

##### (1) 米国における NYIAS の位置づけと特徴

米国市場では1月の北米国際自動車ショー（通称：デトロイトショー）が自動車ショーとしては最も注目されており、新型車のワールドプレミアを行う場として定着しています。翌2月のシカゴモーターショーは足許で人気の SUV やピックアップトラックなどのお披露目の場として注目されています。そして翌3月末から4月にかけて開催されるのが、NYIAS となっています。北米のモーターショーの中で最も集客人数が多いことで知られており、高所得者層も多いNYのマンハッタンで開催されることから、高級車の展示車が多いのも特徴で、今回も高級ブランドの出展が目立ちました。11月にはロサンゼルスモーターショーがあり、自動運転や電気自動車（以下 EV）を中心に次世代技術関連の発表が行われます。また米国では小さなモーターショーを含めると全米各地でほぼ毎月のペースで実施されており、自動車メーカーが米国市場をターゲットとして力を入れていることが伺えます。

##### (2) 2019 年 NYIAS の注目点

2019年のNYIAS注目点としては①各メーカーがSUVやピックアップに力を入れていること、②高級車の展示が多いこと、③最新のEVなどエコカーの展示車が多いこと、が挙げられます。特に①では、トヨタが昨年の全米での販売数が第15位の新型「ハイランダー」を、米国を主戦場とするスバルが同社で最も販売台数の多い新型「アウトバック」を世界初公開し、新型車を一目見ようと展示車の回りには多くの報道関係者が群がっており、その関心の高さが伺えました。ハイランダーはNY市内でもUBERやLyftなどによく利用されており、多人数が乗れることから人気が高い車種です。各メーカー共にSUV・ピックアップタイプの人気が高いアメリカを重要市場として位置付けており、内装にレザーを多く使用したり、インパネ周りのデザインを一新し、質感を高めていると感じました。また、②では高所得者層に人気のレクサスやアキュラ、インフィニティに加え、欧米のメルセデスベンツ、ポルシェ、ローバーなど高級ブランド車種の展示車に多くの人が関心を寄せており、富裕層の多いNYで各メーカーが高級車の展示に力を入れていると感じました。

環境に優しいエコカーではEVも去年よりも多く展示されていると感じました。アウディではブランド初となるEVのSUV「e-tron」が展示され、これまで電気自動車はセダンのイメージが強かったですが、北米で人気のSUVであり、実用性も高いことから関心も非常に高い印象を受けました。アウディは2025年までに主要なラインナップの全てにEVまたはPHEVを投入することを発表し、EVにシフトする姿勢を明確にしています。



トヨタ「ハイランダー」



スバル「アウトバック」



アウディ「e-tron」

## 2. 自動車メーカーを取り巻く環境

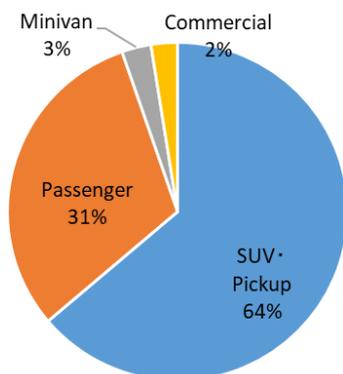
### (1) 米国自動車販売の状況と特徴

4月2日発表の3月米国新車販売台数は前年同月比▲2.7%の160万8,662台と、伸び悩みましたが、今年は前年と比較し、営業日が1日少ないことを考慮すると健闘しているとも見ることが出来ます。これにより、1-3月期における米国市場の販売累計は400万6,667台となり、前年同期比で▲2.5%となりました。足元ではFRBの金融政策の緩和方針から金利も低下しており、加えて労働市場がしっかりとしていることから、購入意欲は腰折れしづらいとの声も聞かれます。

3月の車種別の内訳ではSUV・ピックアップタイプの販売が前年同月比で+0.5%と大型車の人気が続いている一方で、セダンなどパセッセンジャータイプが▲9.0%とパセッセンジャータイプの人気は弱い状況です。2018年の米国の自動車販売状況も、販売台数上位3車種をピックアップが占めており、全体でもSUV・ピックアップタイプが64%を占めています(図表1、2)。

また、テスラを中心に電気自動車の販売は着実に伸びており、2018年は前年の約2倍となる20万8,000台を販売しました。ある調査会社の試算では2025年に1,100万台以上販売されるとの見通しもあり、あと5年程度で10%近くのシェアを占めることとなります。現状各メーカーで1車種程度の電気自動車のモデルが販売されていますが、今後各メーカーから、電気自動車について複数の車種が販売されることにより、予想以上に普及が加速すると見られています。

図表1：2018年米国自動車販売・セグメント別シェア



図表2：2018年車種別販売台数ベスト10

| メーカー   | 車種           | 販売台数    | セグメント     |
|--------|--------------|---------|-----------|
| 1 フォード | Fシリーズ        | 909,330 | Pickup    |
| 2 GM   | シボレー・シルバード   | 585,582 | Pickup    |
| 3 FCA  | ラム           | 536,980 | Pickup    |
| 4 トヨタ  | RAV4         | 427,168 | SUV       |
| 5 日産   | ルージュ         | 412,110 | SUV       |
| 6 ホンダ  | CR-V         | 379,021 | SUV       |
| 7 トヨタ  | カムリ          | 343,439 | Passenger |
| 8 GM   | シボレー・イクイノックス | 332,621 | SUV       |
| 9 ホンダ  | シビック         | 325,760 | Passenger |
| 10 トヨタ | カローラ         | 307,732 | Passenger |

## (2) カーシェア・ライドシェア市場への対応

米国ではNYなど都市部を中心としてUBERやLyftといったライドシェアの利用が普及しており、3月にはLyftが上場し、UBERが4月に新規上場申請するなど、ライドシェア市場が拡大しています。今後、テクノロジーの進展によりカーシェア市場がさらに拡大していく見通しで各メーカーはライドシェアやカーシェア企業に対して出資・提携を進めたり、自らサービスを提供する動きを強めています。

直近の動きとして、トヨタが昨年7月、米国ハワイ州のトヨタ自動車の販売代理店と共同でスマートフォンによるドア開閉システムを活用したカーシェアサービス「Hui」を開始しました。また、トヨタは昨年9月にUBERに5億ドルの追加出資し、2021年にUBERのネットワークを通じて、自動運転サービスを提供しようと考えています。今年2019年1月にはホンダが米国カーシェアリング大手Zipcarと戦略的提携を行い、ホンダの最新車をカーシェアリング車両として提供することを決定しました。独VWではEVを利用したカーシェアサービス「We Share」をベルリンから年内に開始し、欧米の大都市で展開する予定です。

## 3. おわりに

米国市場はSUV・ピックアップタイプのシェアが大きいことから、昨年に引き続き今年のNYIASでも各メーカー共にSUV・ピックアップタイプに注力している様子が伺えました。一方で、政府の環境規制や技術の進展によって、EVが今後増加する予兆を感じさせ、調査会社の予想通り、来年以降はさらに各メーカーがEVに力を入れるだろうと感じました。

足元ではトランプ政権の通商問題による先行きの不透明感から、自動車メーカーをはじめとする製造業の設備投資に対するセンチメントがやや弱まっており、個人消費も底堅さを見せているものの減税効果の剥落などから伸びは鈍化しています。自動車販売動向は米国経済への影響が大きく投資家も注目しています。自動車業界を取り巻く環境変化やテクノロジーの進歩は早く、今後とも各メーカーの環境変化に対する戦略やカーシェア・ライドシェアに対する姿勢に注目です。

【ニューヨーク駐在員事務所 高信 喜博】

ー イースターパレード&ボンネットフェスティバル ー

ニューヨークで100年以上続くイベントの1つにイースターパレード&ボンネットフェスティバルがあります。パレードとはいうものの、実際にフロート（大きな風船の山車）やマーチングバンドがパレードをするわけではなく、当事務所からほど近い聖パトリック大聖堂が位置する5番街49丁目から57丁目までが歩行者天国になり、華やかに飾りつけをしたボンネット（帽子）やコスチュームを身につけた人々が集まるイベントなのです。



もともとはキリストの復活を祝うイースターの礼拝を訪れる女性が、毎年新しい帽子を着用することから始まったこのイベント、今では男女を問わず、ペットもおしゃれをして参加します。参加資格等がなく気軽に楽しめることもあり、ニューヨークで人気のイベントの1つです。



今年は、4月15日パリのノートルダム大聖堂で発生した火災事故の後、聖パトリック大聖堂に大量のガソリンを持ち込もうとした男性が警察官に拘束され、また前日の4月20日にはスリランカで教会やホテルなど8箇所連続爆破事件が発生したことから、パレードは厳重に警備された中で開催されましたが、イースターのシンボルであるウサギの耳飾りをつけて警備にあたる警察官の姿も見られ、終始和やかな雰囲気でした。

長く寒いニューヨークの冬が終わり、春が来る喜びを全身で表現するこのイベント。とても華があり、参加している人も、見ている人も笑顔で楽しむ姿が印象的でした。



## 米国マーケットレポート（4月）

### ○マーケット情報

| 市場 | 指標        | 4月末       | 3月末       | 月間騰落額   | 月間騰落率 |
|----|-----------|-----------|-----------|---------|-------|
| 株式 | NYダウ      | 26,592.91 | 25,928.68 | +664.23 | +2.6% |
|    | ナスダック     | 8,095.39  | 7,729.32  | +366.07 | +4.7% |
| 債券 | 10年債利回り   | 2.50      | 2.41      | +0.10   | +4.0% |
| 為替 | ドル/円      | 111.42    | 110.86    | +0.56   | +0.5% |
|    | ユーロ/ドル    | 1.12      | 1.12      | ▲0.00   | ▲0.0% |
| 商品 | 原油先物(WTI) | 63.91     | 60.14     | +3.77   | +6.3% |
|    | 金先物       | 1,285.70  | 1,298.50  | ▲12.80  | ▲1.0% |

出所: Bloomberg

### ○米国市場の概況（4月）

#### 【株式市場】ハイテク関連の上昇が継続、ナスダックは+4.7%

4月の株式市場は、3月にFOMCが金融政策をよりハト派な内容にシフトしたことを好感し、上昇トレンドが継続した。4月中旬以降本格化した米国企業の1-3月期決算は現状では市場予想の利益を上回る企業が多く、昨年付けた史上最高値を更新する動き。セクター別では金融、ハイテクセクターが株価上昇を牽引した。

#### 【債券市場】10年債利回り一時2.6%台後、2.50%付近に低下

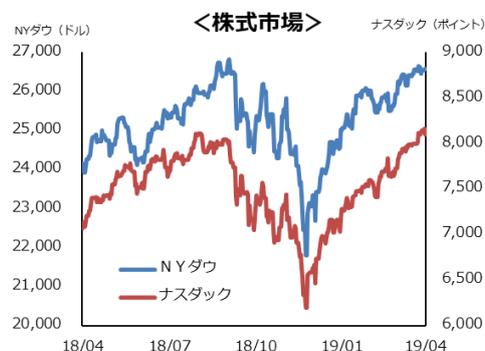
3月に2.33%まで低下した米国10年債は、4月に上昇に転じ、一時2.60%を超える場面もあった。3月は長短金利の逆転懸念も高まりましたが、4月は長短金利は拡大し2年-10年のスプレッドは0.2%程度に拡大した。米国株高によるリスクオフの動きに加えて、4月初旬発表の3月雇用統計など米国経済指標が底堅い内容となったこと、中国景気の底打ち観測も金利上昇をサポートした。

#### 【為替市場】FRBがよりハト派にシフトするも米ドル上昇

ドル/円は、膠着状況が継続し111円台で推移。世界景気の好転期待や原油価格の急上昇によるリスク回避のドル買いから米ドル需要は引き続き底堅く推移した。一方で、米金融政策の動向次第ではドル売りに作用する可能性もあり、警戒する動きも見られる。

#### 【商品市場】原油価格は65ドル台まで一時上昇

WTI先物価格は前月末比で+6%と上昇トレンドを維持。リビアやイランなどによる供給が減少するとの見方や、FRBの緩和的な金融政策を受けて資金が流入しているとの見方もある。一方で、原油在庫は足元増加しており、リグ稼働数はほぼ横ばい。



## ニュース一覧

(2019年4月のニュースを抜粋、日付はBloomberg掲載日であり、あくまで参考となります)

### ●経済(発表順)

- ・ISM製造業景況指数:3月は55.3(予想54.5)と前月の54.2から上昇(4/1)
- ・小売売上高:2月は前月比-0.2%(予想:+0.2%)と予想外のマイナス(4/1)
- ・非農業部門雇用者数:3月は前月比+19.6万人(予想+17.7万人)と強い内容(4/5)
- ・失業率:2月は3.8%と前月と変わらず。賃金は前年比+3.2%前月から低下(4/5)
- ・小売売上高:3月は前月比1.6%(予想:+1.0%)と2017年以来の大幅な伸び(4/18)
- ・住宅着工件数:3月113.9万戸(前月比-0.3%)と予想外の減少。2017年来の低水準(4/19)
- ・中古住宅販売件数:3月は521万戸(予想530万戸)と前月比-4.9%(4/22)
- ・耐久財受注:3月は前月比+2.7%(予想+0.8%)。コア資本財が8カ月ぶり大幅増(4/25)
- ・ミシガン大学消費者マインド指数:4月は97.2(予想97.0)、前月から改善の動き(4/26)
- ・GDP速報値(1Q:1-3月):前期比+3.2%(予想+2.3%)に加速(4/26)
- ・PCEコア:3月は前年比+1.6%(予想+1.7%)と低い伸び(4/29)

### ●金融政策(米国・欧州)

#### (米国)

・ウィリアムズ・ニューヨーク連銀総裁:

数カ月前の経済に対する懸念は、幾分後退した兆しがある(4/12)

・エバンス・シカゴ連銀総裁:20年秋までの金利据え置きを予想(4/15)

・カプラン・ダラス連銀総裁:政策金利の引き上げや引き下げの理由は見当たらない(4/18)

#### (欧州)

・ドラギ ECB 総裁:銀行への長期資金供給とマイナス金利の調整が最初の防衛策(4/10)

### ●政治(米国・欧州)

#### (米国)

・EV購入、税控除延長で後押し。超党派の米上院議員が法案提出(4/10)

・トランプ米政権、日本などへのイラン原油禁輸の適用除外を終了へ(4/22)

・クドロー氏、FRBは利下げに向けて動いていると思う(4/26)

・米財務長官ら通商協議で北京入り。中国と生産的な討議を期待(4/30)

#### (欧州)

・メイ首相、信任投票早期実施で退陣も一与党がルール変更検討と英紙(4/22)

・スペイン総選挙、政権発足が行き詰まる恐れも一左右陣営が拮抗か(4/22)

### ●企業関連

・アルファベット:1-3月は売上高が市場予想下回る一株価下落(4/29)

・アップル:アップルの見通し、市場予想超え株価上昇一iPhoneに安定化の兆し(4/30)

・リフト:米配車大手リフトが上場。IPO 価格は仮条件レンジの上限に(3/29)

(出所:各種新聞、ブルームバーグ等)